

担任の先生が都合で不在になる日がある。たいてい朝の会と1限目に補欠に入るようにしている。今日は、3年生の補欠に入った▼前の日から分かっていたらそうでない日もある。今日は後者。多くの子どもたちは朝から残念そう。月曜日だから土日のことで聞いてほしいこともたくさんあったに違いない▼次の子どもの興味は、だれが来てくれるのかである。ある意味切り替えが早い。授業がどうなるのかである。「みんなが揃ったら言うからね。」個別に答えるより、わたしは子どもたちが出してくれる提出物を処理するのに忙しい▼子どもたちの目には、わたしは途方に暮れているおじさんに見えるのだろうか。私の机に集まり、やさしく教えてくれる。「漢字ノートは・・・」「生活点検カードは・・・」「算数プリントは・・・」子どもたちの何気ない一言から日頃の担任の指導が垣間見える。と同時に子どもたちからは「日常の持続」への要求が伝わってくる▼次の日、子どもたちは担任にこんなことを言ったという。「ぼくたち先生がいなくてもがんばれたよ」「わたしたちちゃんとできたよ」そう言えば、昨日の目標には【担任の先生がいなくても、がんばる】と書いてあったことを思い出した▼子どもたちはきっと担任にたくさんほめてもらったことだろう。担任の笑顔の報告の背景にたくさんの子どもの笑顔が見えた。